

1 準備に当たって

キャリア教育を推進する上で、指導者である教員の資質や専門性の向上が極めて重要であることは言うまでもありません。

そのためには、キャリア教育のねらい等についての本質的理解をすべての教員が共有するとともに、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間の活動における個々の取り組みが、キャリア教育においてどのような位置付けをもち、役割を果たすのかについて、教員一人一人が十分理解することが不可欠です。

また、校内・外での研修を積み重ねながら、子どもたちの発達やそれを取り巻く環境の変化等についての的確な認識、キャリア教育の実践に必要な知識や指導方法、子どもたちに身に付けさせたい能力・態度等に係る目標設定の方法やその評価方法等を教員が習得していくことが求められています。

さらに学校教育においてキャリア教育を推進していくためには、第1章で述べたキャリア教育のねらいを理解した上で、校長のリーダーシップの下、学校経営方針にキャリア教育を位置付ける必要があります。

また、キャリア教育を進めるためには、地域との連携が不可欠なことから、保護者や校外の諸機関との連携を図りながら、適切な組織をつくることが重要です。

ポイント

- ① キャリア教育に関する情報の積極的な収集
- ② キャリア教育の理解を目的とした校内研修会等の実施
- ③ キャリア教育を推進するための組織づくり

1 キャリア教育に関する情報の積極的な収集

留意点

書籍、リーフレット、インターネットのWebページ、先進校などから情報を収集します。(※4)

資料

※4 P. 39 No.4 参考文献

2 キャリア教育の理解を目的とした校内研修会等の実施

留意点

「1 キャリア教育に関する情報を積極的に収集」(P.10)で収集した資料等を基に、次の事項等について理解を図ることをねらいとして、校内研修会等を開催します。

計画的に開催し、次の事項について情報交換・意見交換を行います。

- ・ キャリア教育は、学校の教育活動全体を通じて推進するものであること
- ・ キャリア教育は、児童生徒の発達段階を踏まえ、キャリア教育で育成する能力・態度の到達目標を明確にし、取組みの適時性や系統性、発展性に配慮して進めるべきこと
- ・ 職業教育や進路指導などキャリアに関する指導と教科等の指導との間には相互補完性があること
- ・ 体験的な学習活動の重要性
- ・ キャリア教育と進路指導との関係（中学校・高等学校）
- ・ 家庭・地域社会等との連携の必要性

3 キャリア教育を推進するための組織づくり

留意点

(1) 校内における組織づくり

各校において、校内にキャリア教育を推進する組織（「キャリア教育推進委員会（仮称）」）を設置します。（※5）

資料

※5 P. 40, 41 No.5 校内組織例
(P. 40 : 福山市立網引小学校)
(P. 41 : 戸手高等学校)

(2) 校外の諸機関との連携を図る組織づくり

産業界・経済界、地域、保護者、異校種等との連携を図るための組織（「キャリア教育推進協議会（仮称）」）を設置します。（※6）

資料

※6 P. 42, 43 No.6 地域推進委員会組織例
(P. 42 : 東広島市地域)
(P. 43 : 福山市新市地域)

計画的に開催し、次の事項の情報交換・意見交換が必要です。

- ・ 職場見学・職場体験・インターンシップ等の受け入れ事業所等の確保について
- ・ キャリア・アドバイザーや講師として地域の人材を確保することについて
- ・ キャリア教育の推進に係る校内・外の取組みについて、保護者の理解と協力を得るための研修会や説明会の開催について等